

つながるの昔っこ (昔話) ⑥

3人の息子

(標準語)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ

あるところに、男の子ばかり3人いるお父さんがいました。3人とも一人前に成長しましたが、誰を跡継ぎにするか迷っていました。通常、長男に跡継ぎするものですが、長男は馬鹿正直なお人好しで、さらに、頭があまり良くなかったようです。それに比べて次男は頭良くて算数なども得意でした。三男はすばしっこくて、大変賢い子供でした。



ある日、お父さんが3人を集め、『さあ、ここに座れ。今、お前たちに同じ額のお金をやるから、これをもとに好きなように稼いでみる。そして5年後の今日また家に戻ってこい。そのときに誰にこの家を継がせるか決める』と言いました。



さあ、2人の弟は『よおし、沢山儲けて戻ってくるぞ』って、張り切って出て行きました。長男は、困ってしまいましたが、出て行かない訳にもいかず、渋々出て行きました。

長い旅の途中疲れてきたので、村の外れの古いお堂の下で休んでいました。ウトウトと眠っていたら、男達がドヤドヤとやってきて、お堂の前に馬車から材木を降ろし始めました。



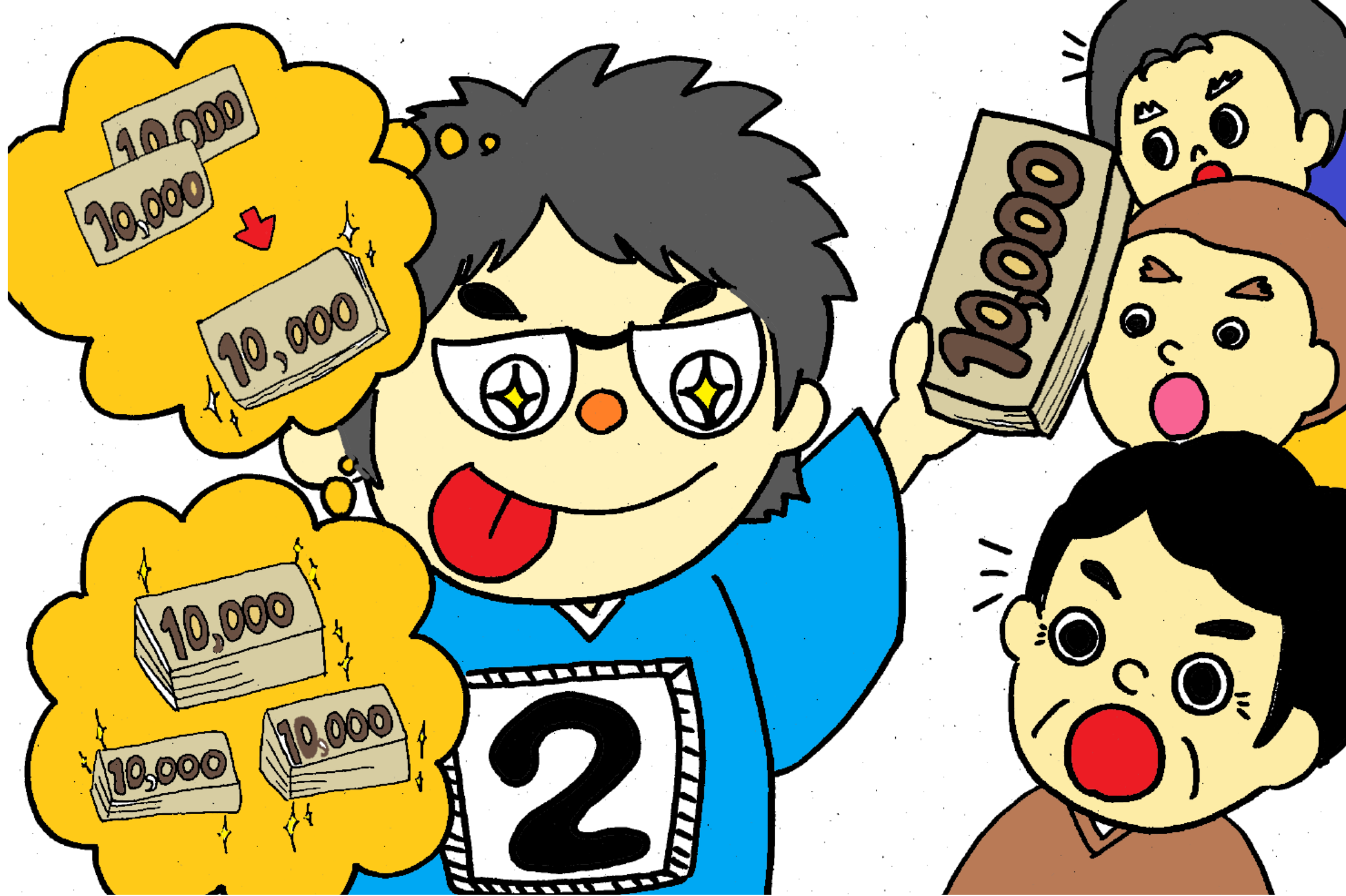
降ろし終わって一服しているとき、その中の親方が『このお寺のお堂、秋の祭りに前にどうにかして直してしまわないとならない。村長様からのきつく言われている。だけど、人手が足りなくて困っている』と言いました。



お堂の脇で休んでいた長男はそれを聞いて『親方、親方、私を何とか使ってください。何でもしますので』と言って、この親方に雇われました。

次男も長い旅の途中、ある宿で男達が集まって大声で話していました。黙って聞いていたら、小豆の相場の話だったそうだ。だんだん話が面白くなって、知らず知らずのうちに次男もその輪の中に入っていました。

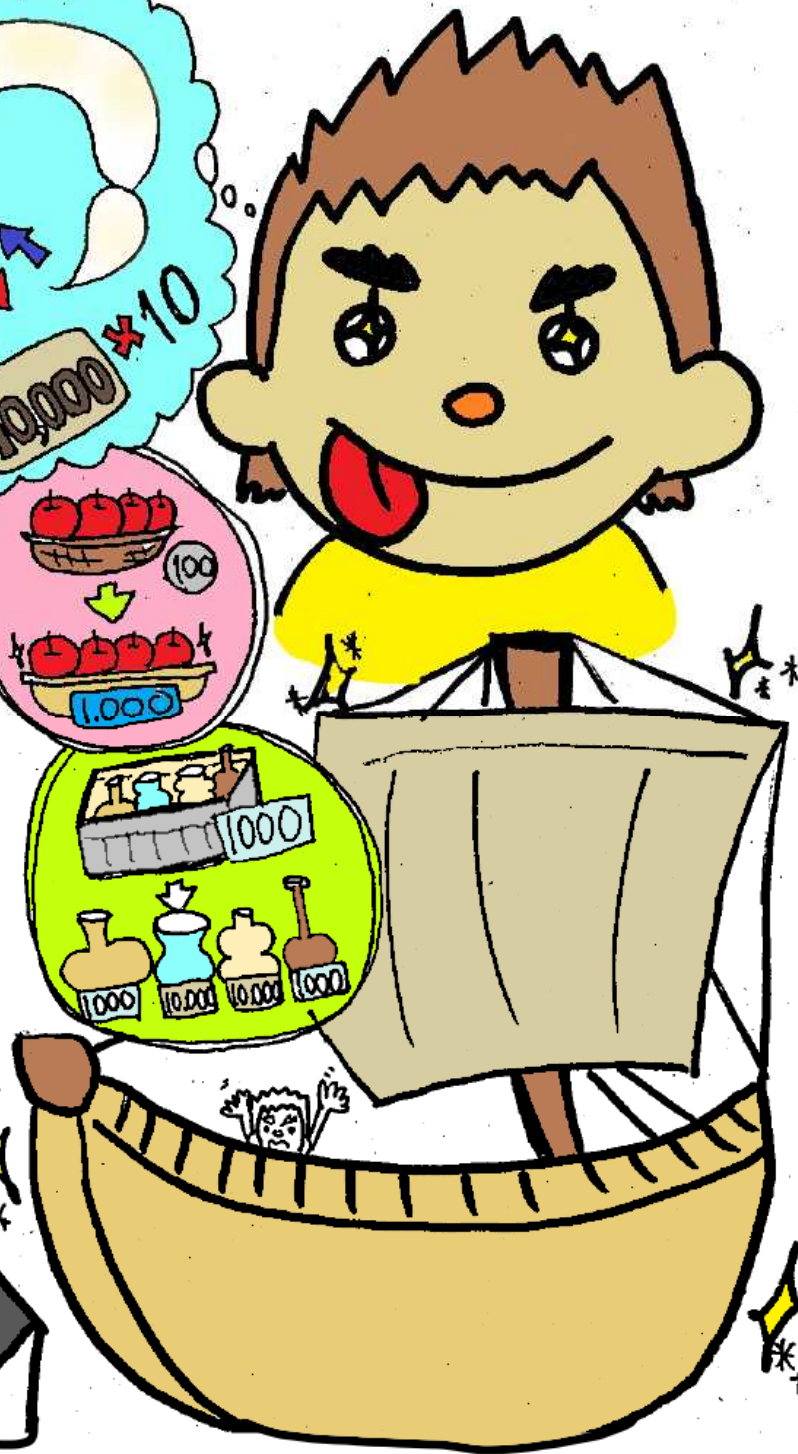




一人の男に勧められ、お父さんから貰ったお金から少し小豆の相場に投資したところ、これが当たってお金が何倍なって戻ってきました。面白くて、面白くて、最後持ってるお金全部一気に賭けてみました。

三男も何をしようかと思い旅をしているとき、ある村に来た時、日が暮れてマタギの家に泊めてもらいました。そこで泊めてもらったお礼に少し多めにお金を差し出したところ、マタギが大変喜んで、テンの皮をくれました。テンはイタチの仲間で、その皮はなめらかな、柔らかいきれいな皮でした。





三男が大きい町まで来た時、その町の大金持ちの奥様がそのテンの皮を見て『譲ってちょうだい』と言って大金で買いました。『これはおもしろい。俺は一つ、商売するべ』と、商売人になりました。仕入れては売って、仕入れては売って、とうとう大船を買って海の外までも商売する大商人になりました。

こうして、5年がたちました。
五年目のお父さんが決めた日、息子達3人家に帰ってきました。
お父さんは3人と酒を飲みながら話を聞きました。



まずは、三男がしゃべりました。

『俺は商人になったのさ。毛皮から始めて、食うもの、着るもの、材木など 何でも商って、最後は海の向こうの外国にまで売り買いに行ったんだ。その為に船をこしらえてので莫大な借金をしたのさ。この船で外国から珍しい物いっぱい仕入れて、日本で売れば借金は返しても、まだまとまった大金、手元に残るはずだったんだが、そしたら、その船、嵐で沈んでしまったのよ。俺スツカラカンになってしまったのさ。それからというもの、ずっと乞食のように暮らしてきたのさ』と言いました。



今度は、次男がしゃべりました。

『俺は小豆の相場で当たってさ、それから面白くなって、大豆や麦など手当たり次第相場張ったら次々と当たって大金をてにしたのさ。大きな家も蔵も建ててうまい物食って、人にもお金ばらまいたのさ、これなら威張って家に帰れると思っていたが、最後に思い切り張った相場、もの見事に外れてよ

俺もこの通り三男のようにスッカスカになってしまったのさ、お金借りに走り回ったけれど、誰も助けてくれる人はいなく、あれほど寄ってたかってきた人たちも誰もくるもんじゃない、それからずっと日雇いやって暮らしてきたのさ』



お父さんは『フーツ』
とため息ついて、今度は長
男の話をしました。



『俺は弟達のように頭も良くないし、気も利かない。ある縁で大工の親方に拾われて弟子になり下働きばかりしていたが、だんだん大工の仕事も仕込んで貰って、今まで宮大工の弟子になったのさ。五年で年季あけたので、こうして大工道具一揃い、祝儀に貰って戻ってきたのさ。』



お父さんは、『そうしたら、おまえ、持たせた資金どうした？』

長男 『ああ、あのお金はそのままあるよ』って、お父さんに見せました。それを聞いたお父さん『いくら、馬鹿のようだけれど、長男は長男な程あるな』と言って、跡を継がせることにしました。

お金というものは、貯めるのも簡単ではないけれど、儲けたものを使うのも、もっと難しいものだ。



人に必要な物は一汁三菜、三食の食事と畳一畳の広さがあれば、それで足りる。大金持ちになったからって、食べ物2倍、3倍も食えないし、着物十枚も着て歩けるもんじゃない。

毎日、湯水（ゆみず）のように大金入ってきたとしても、それ持ってあの世にいけるもんじゃない。後に残せば子供達、贅沢を覚えて働かなくなる。三代目はお決まりの自己破産だ。

さて、お父さんの家では、長男が跡を継いで、次男も三男も一からやり直して、十年も経ったらそれぞれ独立して、それから、堅く快適に暮らしました。

昔から『若いときの苦労は買ってでもしてみろ』って言いますよね。
『かわいい子には旅させろ』ってもね。



それにしても、この子供達のお父さんは偉い人ですね。



おしまい